

令和3年度

武雄市教育委員会点検評価報告書

(令和2年度分)

武雄市教育委員会

## はじめに

武雄市教育委員会では、武雄市教育の現状と課題や、武雄市教育大綱「組む」の基本指針を踏まえ、「武雄市の教育」の基本目標として、

- 「幼児期からの子どもたちの知・徳・体を高く調和させる教育の推進」
- 「市民一人ひとりの生きがいと郷土愛・防災力を高める生涯学習の推進」
- 「明日につながる伝統文化の継承と多彩な文化の創造」
- 「豊かな学びを支える教育環境と子育て環境の整備」
- 「協働する市民総参加による教育の推進」

の5つを掲げ、各種の事務事業に取り組んできました。

一方、教育委員会が効果的な教育行政を推進していくためには、自らの活動を点検・評価し、公表することが重要です。

このため、平成19年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、平成20年度から毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況について、点検及び評価を行い、その結果を報告書として、議会に提出するとともに、市民の皆様へ公表することとされています。

これを受けて教育委員会では、令和2年度に実施した各種の事務事業が効率的かつ、有効的に行なわれてきたかを点検・評価し、課題や取組みの方向性について、点検評価報告書としてまとめました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、事業が計画通りに実施できず評価ができないもの、または他の方法で実施に向け努力したということでの評価を行うなど、今年度は評価方法を変更しています。

この点検・評価結果を、市民の皆様へ公表するとともに、今後の武雄市教育行政の一層の充実、推進へとつなげていきたいと考えています。

皆様のご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。

令和3年9月

武雄市教育委員会

＜ 目 次 ＞

1 点検・評価に当たって	2
・令和2年度武雄市の教育 施策の体系	3
2 令和2年度の具体的施策、評価委員からの指摘事項・ご意見	
・意見書	4
・基本目標Ⅰ 幼児期からの子どもたちの 知・徳・体を高く調和させる教育の推進	7
・基本目標Ⅱ 市民一人ひとりの生きがいと 郷土愛・防災力を高める生涯学習の推進	11
・基本目標Ⅲ 明日につながる伝統文化の継承と多彩な文化の創造	14
・基本目標Ⅳ 豊かな学びを支える教育環境と子育て環境の整備	15
・基本目標Ⅴ 協働する市民総参加による教育の推進	18

## 1 点検・評価に当たって

### 1 点検評価の対象

今回実施した点検評価の対象は、令和2年度武雄市の教育基本方針に基づき実施した学校教育関係、子育て関係、生涯学習関係、歴史・文化関係及び地域との連携等の各種事務事業を対象としました。

### 2 点検評価の方法

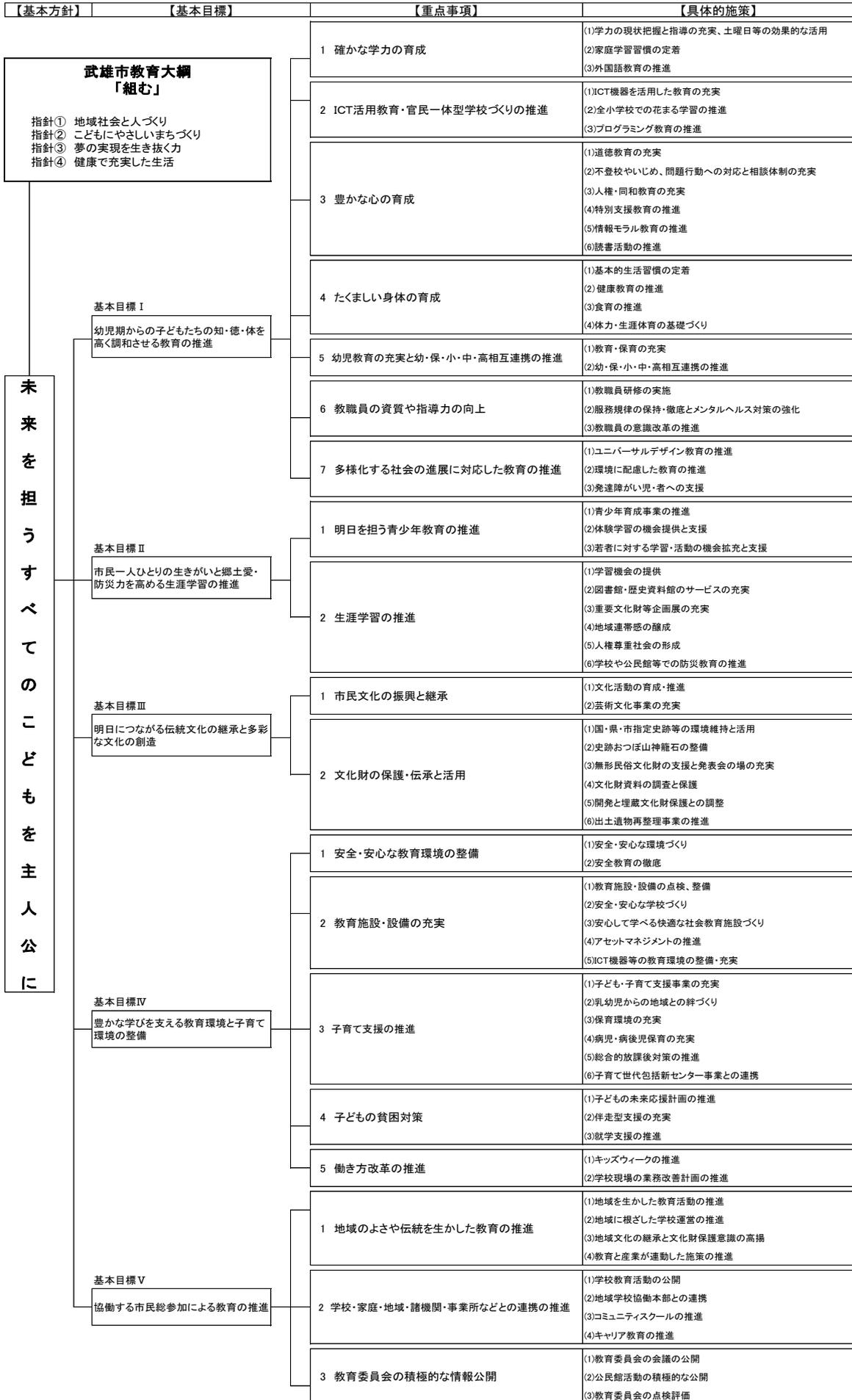
- (1) 点検評価に際しては、必要性、効率性、有効性、公平性等の観点から分析し、課題や問題点、今後の改善点について示すこととしました。
- (2) 点検評価に際し、その客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方など5人で構成する教育委員会評価委員会を設け、様々なご意見、助言をいただきました。

評価委員会委員の方々は、次のとおりです。

委員長	松尾敏実
副委員長	江越勝幸
委員	松尾政勲
委員	馬場桂子
委員	下村恵美子

(順不同、敬称略)

# R2 武雄市の教育 施策の体系



未来を担うすべてのこどもを主人公に

# 意 見 書

武雄市教育委員会は、令和2年度武雄市教育の基本方針として、子どもたちの生き抜く力を育むとともに、進展する社会に創意を凝らして対応し、文化の創造や産業の振興など社会や地域の発展に貢献できうる心身ともにたくましい市民の育成を目指して、5つの基本目標を掲げ、各種施策に取り組まれています。

本意見書は、武雄市教育委員会が令和2年度に実施した教育委員会活動及び事務事業の自己点検・自己評価結果について、「武雄市教育委員会点検・評価シート」及び関連資料に基づいて、武雄市教育委員会評価委員会が評価したものです。

令和3年7月2日、16日及び8月2日の3回にわたり評価委員会を開催し、事務事業の目標、自己点検・自己評価の視点や方法の適切さ、目標の達成度に対する自己評価の適切さ、課題、改善策等について検討を行いました。

その結果、それらに対する評価委員会としての評価は、目標に対し達成していると判断しました。個々の事業に対しては、若干の意見を付していますので、今後の改善の参考にしてください。

市教育委員会においては、ICT活用などの様々な事業を展開しておられます。令和元年8月の豪雨災害や元年度末からの新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴い、様々な創意工夫をされて事業実施に向け尽力されていますが、更なる対応が求められており、事業の推進に向けて、次の点に留意していただくようお願いします。

- 子どもたちの学習状況調査の結果を分析し、今後も引き続き学校及び市において、「確かな学力の育成」を推進してください。
- ICTを活用した学習方法については、国が打ち出した「GIGAスクール構想」に先駆け、武雄市は児童生徒に1人1台の学習用端末が導入されていますが、オンライン授業、さらには登校できない子ども達へのICT活用など活用の幅が拡大しています。子どもたちにとって、また、教職員にとって最も効果的な方法を研究し、さらに推進してください。
- 子どもの安全・安心について、学校や地域との連携による子どもたちの見守り活動、また豪雨災害や今も全国各地で発生している大規模災害の教訓を活かした防災教育の実施など、引き続き子どもの安全・安心について積極的に取り組んでください。
- 教職員の働き方改革については、各学校でも工夫しながら取り組んでおられますが、引き続き取り組みを進めてください。  
また、学校現場の業務量の問題や様々な課題に対して、教育委員会は、学校や教師の現状を理解し、守る立場で支援しながら、教師のやる気を喚起するような取り組みを行い、学校教育の充実に取り組んでください。
- 次世代を担う子どもたちが、環境に左右されることなく、どの子ども教育機会の均等が図られるよう、福祉分野の連携など市全体としてより一層継続的な支援策に取り組んでください。

- すべての市民に学びの機会を提供し、多様な地域の文化や歴史を活用しながら、豊かで、郷土愛の醸成につながるように引き続き事業の推進に努めてください。

また、評価結果は、目標設定や次年度予算編成時期とのずれから、評価結果がすぐに次年度施策には反映されませんが、指摘事項については、年度にとらわれず、速やかに検討してください。

教育行政を取り巻く環境は、日々変化しています。武雄市教育委員会が、教育行政を取り巻く環境の変化を的確に把握するとともに、今回実施した点検・評価を踏まえ、今後の武雄市教育行政の一層の充実・発展に取り組まれることを願っています。

令和3年8月2日

武雄市教育委員会  
教育長 松尾 文雄 様

武雄市教育委員会評価委員会  
委員長 松尾 敏実

教育委員会評価及び評価委員評価一覧表（令和2年度）

項 目		評価委員 評価
I-1	確かな学力の育成	A
I-2	I C T活用教育・官民一体型学校づくりの推進	A
I-3	豊かな心の育成	A
I-4	たくましい身体の育成	A
I-5	幼児教育の充実と幼・保・小・中・高相互連携の推進	A
I-6	教職員の資質や指導力の向上	A
I-7	多様化する社会の進展に対応した教育の推進	A
II-1	明日を担う青少年教育の推進	A
II-2	生涯学習の推進	A
III-1	市民文化の振興と継承	A
III-2	文化財の保護・伝承と活用	A
IV-1	安全・安心な教育環境の整備	A
IV-2	教育施設・設備の充実	A
IV-3	子育て支援の推進	A
IV-4	子どもの貧困対策	A
IV-5	働き方改革の推進	A
V-1	地域のよさや伝統を生かした教育の推進	A
V-2	学校・家庭・地域・諸機関・事業所などとの連携の推進	A
V-3	教育委員会の積極的な情報公開	A

評価4段階	A	達成	80%以上
	B	ほぼ達成	50～79%
	C	やや不十分	20～49%
	D	不十分	19%以下

基本目標 I 幼児期からの子どもたちの知・徳・体を高く調和させる教育の推進

【重点事項 1】確かな学力の育成		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) 学力の現状把握と指導の充実、土曜日等の効果的な活用		B C A	B B A	<p>◆学習状況調査の結果については、引き続き目標数値が達成されるように分析と取り組みを継続していただきたい。</p> <p>◆コロナ禍の中で土曜日等の開校が難しかったのではないかと推察できる。また授業日確保の観点から開校が難しかった点も理解できる。できる範囲の中で取り組まれたものだと考えている。</p> <p>◆コロナ禍の中で対応は大変ないろいろな制限が取れた後の対応に期待したい。</p>	A
<p>①学習状況調査などの結果を分析し、指導方法の工夫・改善に努めるとともに、前年度正当率を上回るよう指導の充実を図ります。</p> <p>②土曜日等の効果的な活用を図ります。</p>	<p>・全国・県学習状況調査の正答率の向上</p> <p>・土曜日等の開校による授業日の確保</p> <p>・放課後等補充学習支援事業</p>				
(2) 家庭学習習慣の定着		A B	A A	<p>◆「家庭学習の手引き」等で細かく丁寧な対応が行われている。スマイル学習の活用についても好事例を収集し、広めていくことで効果があがると考える。</p> <p>◆規則正しい生活習慣のある子供は、概して成績良好といわれる。これを強制でなく自ら行うような躰を願いたい。教師が、宿題など家庭学習の結果に助言を書いて返すなどしたら子供の意欲も変わると思う。</p>	A
<p>①学年に応じた家庭学習目標時間を設け、家庭学習の習慣を身につけさせます。</p> <p>②スマイル学習（武雄式反転授業）の活用</p>	<p>・家庭学習目標時間の設定</p>				
(3) 外国語教育の推進		A	A	<p>◆ALTの活用が積極的に行われている。さらに活用の内容にも研究を行い、指導力向上につなげていただきたい。</p> <p>◆今後とも推進していただきたい。</p>	
<p>・ALTの活用、小学校での外国語活動などを推進します。</p>	<p>・ALT活用による外国語活動及び英語科授業の補助</p>				

【重点事項 2】ICT活用教育・官民一体型学校づくりの推進		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) ICT機器を活用した教育の充実		A A	A A	<p>◆コロナ禍の中で、積極的にICTを活用した取り組みされている。デジタル教科書等の環境がさらに整えられれば活用も広がるのではないだろうか。また、教員間で使用方法の共有や、教材の共同作成などが進めばさらに活用が進むと考える。</p> <p>◆教科書を紙からデジタルに原則移行する話が出る時代ですが、健康面や集中力を考えたら、懸念も多い。子どもの動きも見て進めていただきたい。</p>	A
<p>・電子黒板や学習者用端末、学習支援システム等を活用した授業により学習意欲の向上と学力向上を目指します。</p>	<p>・電子黒板や学習者用端末の活用促進</p> <p>・デジタル教科書の利活用</p> <p>・「スマイル学習（武雄式反転授業）」の活用</p> <p>・ICT教育推進員の配置（16名）</p> <p>・学習支援システムの充実</p>				
(2) 全小学校での花まる学習の推進		A	A	<p>◆コロナ禍の中でもできる対応が行われ、成果をあげている。</p> <p>◆コロナ禍の中、地域の皆さんの力を借りることができなかったと思うが、先生方は「民」のノウハウをしっかり活用し実践されている部分は評価するに値する。</p> <p>◆官民一体型の指導は他にあまりなく今後もぜひ続けてほしい。</p> <p>◆発足時の地域支援員が高齢化し、子供が卒業した支援員もいて、新支援員が必要である。登録でなくても、「爺ちゃん・ばあちゃんの月」を設けるなども一方法と考える。</p>	A
<p>・公立学校に「民」のノウハウや活力を融合させた新しい学校づくりで、21世紀を生き抜く力を育む教育を推進していきます。</p>	<p>・官民一体型学校の推進</p> <p>・花まる学習会からの講師派遣（2名常駐）</p> <p>・地域支援員の充実（H31動員数：12,522人）</p>				
(3) プログラミング教育の推進		A	A	<p>◆先進的に取り組まれている。</p>	
<p>・プログラミング教育に低学年から取り組むことにより、ICTスキルや創造性の向上、論理的な思考力等の育成を目指します。</p>	<p>・学習者用端末、Pepperを活用したプログラミング教育の推進</p>				

【重点事項 3】豊かな心の育成		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) 道徳教育の充実		A	A	◆保護者の参観率について、コロナ禍の中でも小中学校ともに目標値を上回っているのは、保護者の関心の高さを示している。また、オンラインでの授業参観を実施した学校もあるということで、先進的である。	
・全学校において道徳の時間の充実に努め、保護者へ授業を公開します。	・ふれあい道徳の実施(道徳の授業公開)				
(2) 不登校やいじめ、問題行動への対応と相談体制の充実		C	D	◆「いじめ」「不登校」の生徒への関わりについては、担当が果たす役割は大きいものがある。保護者の理解が進み、児童生徒が少しでも改善していけるように担任の関わりをお願いするとともに、それを支える学校の支援体制や教育委員会の支援をお願いしたい。	A
①学校・家庭・地域等が連携して、「いじめ」「不登校」「問題行動」への早期対応や教育相談の充実に取り組み、未然防止に努めます。 ②不登校児童生徒を減らすため、目標を設定し、関係機関が連携した取組みを進めます。 ③法の整備に伴い、武雄市「いじめ対策条例」を作成し、いじめの根絶を図ります。	・訪問相談員配置事業(3人配置) ・学校適応支援教室「スクラム」事業を利用した不登校対策の実施				
不登校評価基準 (過去5年間の推移と平均値から) A: 出現率1.5%未満 B: 1.5~1.7% C: 1.7超~2.0% D: 2.0%超	いじめ対策基本方針に基づく「いじめ」の根絶			◆不登校対策として訪問相談員配置事業や学校適応支援教室事業に取り組み不登校児童生徒への支援が行われている。不登校対策はすぐには成果として表れにくく時間をかけて取り組む必要があると考える。今後、不登校の未然防止に向けた学校の指導改善も期待したい。	
	問題行動評価基準 (過去5年間の推移と平均値から) A: 発生率1.4%未満 B: 1.4~1.8% C: 1.8超~3.2% D: 3.2%超			◆道徳教育の充実、不登校やいじめ、問題行動への対応は、なかなか難しい問題ではあるが、市内の小中学校が手を携えて改善に向けてお互い努力していこうという風土づくりをつくってほしい。すぐに改善できるとは思っていないが、子どもたちにとって過ごしやすい学校にしていきたいと思います。	
				◆問題行動に関して暴力行為は減少傾向にあるということで、今後も継続した指導を期待したい。	
				◆デリケートな部分ではあるが、育友会、PTAとの連携は先生方の負担軽減につながると思うので、そこも含め検討していただきたい。	
				◆クロムブックの活用は不登校の子供達にもとても良い事だと思う。今後も期待したい。	A
(3) 人権・同和教育の充実		A	A	◆各学校で人権・同和教育に係る研修が行われている。テーマも現状を踏まえたものを扱うなどよく考えられている。引き続き研修の充実を図り、児童生徒への指導に活かしていただきたい。	
・人権・同和教育への理解を深めるため、積極的に校内外での研修に参加し、指導の充実に努めます。	・県、市が開催する研修会への積極的な参加 ・校内研修会の実施				
(4) 特別支援教育の推進		A	A	◆支援を必要とする児童生徒への支援のための人員の確保が行われている。引き続ききめ細かな指導・支援の取り組みを継続してほしい。	
・学校生活支援員を配置し、支援を必要とする児童生徒に対して、きめ細かな指導、支援を行います。	・学校生活支援員配置事業の実施				
(5) 情報モラル教育の推進		A	A	◆情報モラル教育に関する講座が行われており、今後も継続して取り組んでいただきたい。 ◆講座の実施はやっているとのことですが、保護者の参加率はどうなっているのか？参加率を上げるための取り組みを学校に対して行っているか？までほりさげてほしい。	
・情報機器の取り扱いについて、児童生徒が適切な対処ができるよう情報モラル教育に取り組みます。	・年1回各学校で講座実施 ・情報モラルについて周知・徹底				
(6) 読書活動の推進		A	B	◆朝読書の取り組みが、図書館の利用などにもつながっているように思う。今後遠距離の学校も図書館利用が進むような施策に取り組むとよいのではないかと ◆活字に接する習慣が多いほど、総じて学力も高くなると思う。絵本・本・新聞などを通して社会への関心も高まり、非常に良いと思う。	
①読書ボランティアの活用を通して、読書の楽しさを伝えます。また、全学校で読書活動を推進する取り組みを実施します。	・読書活動の推進 ・読み聞かせボランティアの活用				
②読書の楽しさと必要性を伝えながら読書意欲の向上を図ります。また、武雄市図書館との連携と活用を推進します。	・小中学校と武雄市図書館との連携				

【重点事項 4】たぐまい身体の育成		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) 基本的生活習慣の定着		A	A	◆朝食摂取の推進は基本的な生活を営む基本である。今後も学校、家庭が協力してほしい。 ◆起床、朝食、勉強など規則正しい生活習慣のある子供は、概して成績良好といわれる。これを強制でなく自ら行うような態が必要である。	A
・保護者との連携・協力により、「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進し、基本的な生活習慣を身に付け、食の質を向上させる取組みを進めます。	・早寝、早起き、朝ごはんの推進				
(2) 健康教育の推進		A	A	◆今後とも継続した取組みを進めてほしい。	
・性教育、防煙教育、がん教育、薬物乱用防止などの健康教育を保護者、地域と一体となって取り組みます。	・性に関する授業の実施 ・防煙教室の開催(小6、中1) ・がんの教育講演会開催(武雄中、武雄北中) ・薬物乱用防止教室授業の実施				
(3) 食育の推進		A	A	◆「弁当の日」や「たけおの食の日」など武雄市ならではの取組みを今後も推進していただきたい。	
①学校給食の指導を充実させ、「食」の自己管理能力や望ましい食習慣の定着を目指し、食育の充実に積極的に取り組みます。	・「弁当の日」事業の推進 ・食に関する授業の実施 ・全小中学校での食育への積極的な取組み				
②「たけおの食の日」などを通じて、ふるさとの食材の素晴らしさを児童生徒に伝えます。 学校給食での県産物の利用促進を図ります。 ③自校方式学校給食の充実	・学校給食での県産食材の利用				
(4) 体力・生涯体育の基礎づくり		A	A	◆今後とも継続した取組みを進めてほしい。	
・体力テストの結果等を踏まえ、体力向上に努めます。	・体力テストの結果の分析と活用 ・スポーツチャレンジの充実				

【重点事項 5】幼児教育の充実と 幼・保・小・中・高相互連携の推進		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) 教育・保育の充実		A	A	◆多様化するニーズに対応できるよう、引き続き取組みを進めてほしい。	A
・乳幼児期の重要性や特性を踏まえ、発達に応じた質の高い教育・保育を提供します。	・保育所、幼稚園、認定こども園等へ教育・保育に係る経費の給付 ・障害児保育事業				
(2) 幼・保・小・中・高相互連携の推進		B	B	◆コロナ禍で中高生と園児の交流は難しかったと思う。小中連携や幼保小連携は全小中学校で取り組まれているということで事業全体の目標は概ね達成できているのではないかとと思う。 ◆子供たち自身にコロナ禍の中でどうすることが出来るか考えさせてみてはどうか。小中学生自身が活躍できる場を作っていただきたい。そのことが子供たちの自信にもつながっていくのではないかと。	
・中学校による出前授業、小・中連絡会などを行い、小中の連携・強化に取り組めます。 また、高校生との連携を推進します	・小中連携教育活動の実施 ・高校生ふれあい事業				
・幼・保・小連携に関する具体策を年間計画に盛り込み、計画的に推進します。	・幼・保・小の連絡会、交流会の開催 ・幼・保・小相互での授業参観交流	C	B		
・園児・中学生・高校生・支援者の学び・連携の強化に取り組めます。	・育ちあい講座	B	B		

【重点事項 6】教職員の資質や指導力の向上		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) 教職員研修の実施		A	A	◆コロナ禍の中、種々の対応が求められ、勉強会の回数が目標数値に達することができなかったのではないかと。今後さらに働きかけを行うことで改善するのではないかと。	A
・教職員の自主的研修の推進及び支援を行い教師の指導力向上に努めます。	・初任者研修等時期に応じた研修 ・「わたしの教育実践」の作成 ・自主的な勉強会の推進				
(2) 服務規律の保持・徹底とメンタルヘルス対策の強化		A	A	◆交通事故について、先生方も意識をされているのではないかと。定時退勤日の設定についても、効果があったようなのでさらに進めていただきたい。	
①教職員としての職務上、身分上の義務の遂行に努めます。	・交通事故・体罰等の信用失墜行為の防止				
②勤務時間の適正化を図り、教職員のメンタルヘルスの対策強化を図ります。	・毎週1回の定時退勤日の実施による時間外自発的勤務時間の縮減	A			
(3) 教職員の意識改革の推進		A	A	◆人事評価に係る面談を職員の資質向上を図る観点で市全体で統一的に取り組まれていることはよい取組であるとする。事務の効率化にも継続して取り組んでいくことで業務改善につながっていくと思われる。 ◆「信頼される教職員」の育成が一番の問題であり、校長を中心に教員の「和」はできているのか。「信頼される校長」になることが大切かと思う。	
①人事評価制度を活用し、教職員一人ひとりの個性や特性を伸ばし、信頼される教職員の育成を目指します。	・校長による指導とヒアリングの実施による意識改革				
②教職員の情報教育に関する資質や指導力の向上に努めます。併せて、事務の共同実施を推進し、学校の活性化に努めます。	・学校運営支援室による帳簿指導・備品管理システムの実施				
③教育課程の編成を工夫し、教職員が子どもとふれあい、じっくり向き合う時間を確保するよう努めます。	・カリキュラム・マネジメントによる余剰時間の活用と会議時間・回数の縮減、平日の5時間授業日の実施による子どもと向き合う時間の確保	A			

【重点事項 7】多様化する社会の進展に対応した教育の推進		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) ユニバーサルデザイン教育の推進		A	A	◆全学校でよく取り組まれている。各学校の好事例を収集し、広めることで取り組みの広がりができるのではないかと考える。	A
・学校教育の中で、ユニバーサルデザインをテーマとして、他者を思いやる心など豊かな人間性を育む取組みを、関係機関と連携して行い、その理解と普及、実践に努めます。	・UDやバリアフリー、多様な性に関わる授業・学校行事の実施				
(2) 環境に配慮した教育の推進		A	A	◆全学校でよく取り組まれている。児童生徒の主体的な活動を促すことで、意識も高まると考える。	
・節電、節水、リサイクルの周知や、学校内外の清掃作業等の取組みを、関係機関と連携して行い、地球環境に配慮した指導・実践に努めます。	・環境教育の実施				
(3) 発達障がい児・者への支援		A	A	◆引き続き支援の必要な児童生徒に対する支援の充実を図ってほしい。	
・福祉と連携し、発達障がい児・者に対する支援を行います。	・こども発達支援室との連携強化				

基本目標 II 市民一人ひとりの生きがいと郷土愛・防災力を高める生涯学習の推進

【重点事項 1】明日を担う青少年教育の推進		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) 青少年育成事業の推進					
①学校・地域・家庭が連携した事業の推進  ・武雄市青少年育成市民会議(町民会議)を通して、地域・学校・家庭との連携強化を図り、青少年育成支援活動の推進と子どもたちの安全・安心な生活ができる地域環境づくりに取り組めます。	・「ながら防犯」各種パトロール、こども110番の家活動の推進	A	A	◆コロナ対策のことを考慮しながら、工夫した取組が行われている点は高く評価できる。全国表彰も受けられ、大変素晴らしいと思う。今後も引き続き推進していただきたい。	
	・地域環境点検、巡視活動の実施 ・「月に一度はファミリーデー」の周知及びファミリーデー標語の募集 ・「たけ推し”さあ たけおっ子の出番です”たけおっ子の主張」の開催 ・広報誌「雄翔」の発行				
②放課後子どもプラン推進事業の実施  ・地域社会の中で、子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進します。	・放課後児童クラブの実施 ・放課後子ども教室の実施	A		◆支援員の確保やサポーターの確保に努め、引き続き事業の推進を図っていただきたい。 ◆65歳までの継続雇用が義務化され、支援員が高齢化している。子どもと一緒に活動は無理との声を聞く。65歳以下の方が就くような策も必要ではないか。	
(2) 体験学習の機会提供と支援					
①地域のリーダー育成  ・子どもたちの体験活動や地域間交流活動を通じて、学校や地域におけるリーダーの育成と郷土を愛する心の育成を図ります。	・わんぱくスクールの開催(年11回) ・ジュニアリーダー育成研修会の開催(年3回)による技能の習得 ・武雄市・雄武町児童交流団派遣事業の実施	B		◆コロナ禍の中でできる範囲の取組ができている。子どもたちの体験活動のための大切な取組になっているので引き続き継続していただきたい。 ◆他地域との交流に関しては、今後このような状況下では、リモートでの交流も考えてみてはどうか。	A
②ジュニアリーダーの活動機会の充実  ・公民館等を通じて地域での活動の場を増やすよう努め、リーダーとしての意識を高めます。	・わんぱくスクールにおける児童の指導 ・子どもクラブ等へのジュニアリーダーの派遣	B		◆子どもクラブ活動として貴重な機会になっており、継続して取り組んでいったほうがよいと考える。	
③子どもクラブ活動の充実と指導者の育成  ・市及び町の子どもクラブ連絡協議会の活動により、遊び活動や団体活動を通じた学びの場を創ります。	・各単位子どもクラブ独自の活動 ・市子どもクラブ連絡協議会における研修会の実施(KYT(危険予知トレーニング)講習会) ・各町子どもクラブ連絡協議会における安全講習会の実施(心肺蘇生とAED)	B	B	◆子どもクラブ活動として貴重な機会になっているので今後とも推進していただきたい。	
④公民館における青少年講座の充実  ・公民館における子どもたちの体験学習や地域活動を推進し、郷土を愛する心の育成を図ります。	・発明クラブの実施 ・公民館における子ども対象講座の実施	B		◆今後とも推進していただきたい。	
⑤野外体験学習の充実  ・野外活動を通じて自然とふれあい、自然のもたらす恩恵を享受する場を提供することにより、青少年の健全育成及び市民の健康の増進を図ります。	・眉山キャンプ場、乳待坊キャンプ場の青少年事業での活用とこども団体への利用推進	B		◆引き続き推進していただきたい。	
(3) 若者に対する学習・活動の機会拡充と支援					
①学習機会の提供・支援  ・多くの仲間との絆づくりができる学習機会の場を提供します。 ・経済的理由により大学等への就学が困難な者への支援を行います。	・サークルの育成、学習講座の実施 ・成人式の実施 ・奨学金の貸与	A	A	◆今後とも推進していただきたい。	
			A		

【重点事項 2】生涯学習の推進

【重点事項 2】生涯学習の推進		自己評価	評価委員の評価
具体的施策	主要事業名	事業評価 施策評価	指摘事項・意見 施策評価
(1) 学習機会の提供			
①出前講座メニューの充実及び講座の実施 ・身近で分かりやすい充実した講座を提供します。	・学習ニーズにあわせた講座の実施 ・講座メニューの検討及び内容の充実 ・各種団体への講座の周知	A	◆今後とも講座の充実に努めていただきたい。
②学習団体への支援 ・中央公民館サークルや各町のスポーツ、文化サークルへの活動場所の提供などの支援を行います。 ・高齢者の学習機会の提供や支援を行います。	・活動場所及び発表機会(公民館まつり、サークルフェスタ)の提供 ・武雄市民大学への支援 ・黒髪大学、延寿学級の実施	A	A ◆今後とも推進していただきたい。
③公民館活動の充実 ・地域住民のニーズを反映した講座や地域の特色を活かしたイベント等を実施します。 ・地域支援員を配置し、自治公民館や各種団体の活動の支援を行います。	・公民館講座の充実 ・自治公民館、各種団体の支援	A	◆コロナ禍の中で配慮して活動が行われたようである。公民館活動は地域社会の中で大事な役割をもっていると思うので、引き続き地域住民のニーズ等も踏まえて推進してほしい。 ◆公民館間の情報交換・連携を密にして、全町に関係することは共同ですすめてほしい。
(2) 図書館・歴史資料館のサービスの充実			
①図書館・歴史資料館のサービスの向上 ・市民価値の高い図書館サービスの充実を図り、来館者、図書貸出等の増を目指します。 また、各種講演会をはじめ司書講座、古典講座、古文書講座等を実施し、その充実を図ります。 ・「子ども図書館」では、絵本や遊びを通じた学びと交流の場づくりに努めます。	・各種講演、講座、イベント等の充実 ・県内公共図書館相互貸借システム、物流システム活用の推進 ・レファレンス業務の充実 ・子ども向け講座、読み聞かせ等の充実 ・親子の「学びの場づくり」	A	A ◆武雄市の特色ある取り組みとして高く評価できる。今後も推進していただきたい。
②図書館・歴史資料館企画展の充実 ・武雄の歴史・文化・伝統など、歴史的特徴を紹介し、郷土武雄について再認識・再発見し、郷土への愛着を一層深めてもらうために、企画展を開催します。 ・また、企画展資料を中心に、HPで紹介したり、ギャラリートークを開催するなど広報活動に努めます。	・企画展の開催 ・市報、ケーブルテレビ、図書館だより、HP、ポスター、パンフレット等による広報活動	A	◆引き続き工夫した取り組みを進めてほしい。 ◆武雄の素晴らしい歴史をこれからも子供達に伝えて行ってほしい。 ◆いつも興味を持って観ている。これからも市民が足を運ぶような企画展を継続してほしい。
(3) 重要文化財等企画展の充実			
・国重要文化財の武雄鍋島家洋学関係資料を活用し、興味や理解を深めてもらう展示を計画します。	・武雄鍋島家洋学関係資料展示	A	A ◆今後とも武雄市の素晴らしい文化財の展示等推進してほしい。
(4) 地域連帯感の醸成			
①多世代交流の促進 ・地域行事への幅広い年代層の参加を勧め、豊かで、安全安心な地域づくりを推進します。	・地域教育力活性化事業(地域活動の日、地域コミュニティ育成事業、通学合宿等)の実施 ・地域イベントの実施	B	B ◆コロナ禍の中でできる範囲で取組ができています。今後も地域行事への支援を推進してほしい。
(5) 人権尊重社会の形成			
①市民や企業・団体などを対象とした啓発活動の推進 ・人権問題学習会や出前講座を開催し、人権・同和問題についての正しい理解・認識と自らの課題として意識向上を目指します。	・人権問題学習会の開催 ・出前講座における人権啓発	B	◆継続して人権啓発活動を推進してほしい。 ◆今後とも継続・充実に努めてほしい。
②「人権フェスタinたけお」の開催と参加奨励 ・「人権フェスタinたけお」の内容を充実し、人権啓発に努めます。	・人権フェスタの開催	A	A ◆コロナ禍の中で配慮してフェスタが開催された。今後も引き続き推進してほしい。
③学校人権・同和教育との連携 ・市内小・中学生から人権標語を募集し、幼少期からの人権意識の醸成に努めます。	・人権標語の募集・入選作品の表彰 ・標語ステッカーの作成・配付	A	◆今後とも人権意識の向上・醸成に努めていただきたい。

(6) 学校や公民館等での防災教育の推進					
①学校の授業や放課後児童クラブでの防災教育講座を実施します。	・授業や児童クラブでの防災講座、非常食体験の実施	A	A	◆今後も小中学校からの防災教育の推進を進めていただきたい。	A
②乳幼児期の保護者向けの防災講座を実施し、防災意識の向上に努めます。	・子育てサポーター養成講座に「防災」の内容を入れ、保護者や子育て支援者へ防災講座の実施	A			
③まちづくり出前講座等での防災意識の向上を図ります。	・出前講座による防災意識の向上	A			
	・歴史資料館での武雄の災害と治水の歴史についての学び	A			
④公民館事業等による町単位での防災教育を実施します。	公民館講座や各種団体による「防災」の観点を取り入れた事業の実施	A			
⑤青少年事業、社会教育関係団体において防災教育を実施します。	青少年事業や子どもクラブ等教育関係団体における、防災に関する体験や防災講演会等の実施	A			

基本目標 Ⅲ 明日につながる伝統文化の継承と多彩な文化の創造

【重点事項 1】市民文化の振興と継承		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1)文化活動の育成・推進		-	A	◆コロナ禍の中でもできる範囲での活動ができていると思う。引き続き推進していくよう努めてほしい。 ◆コロナ禍のここ1～2年の活動は、本当に異例づくしで難しかったと思う。こんな時は特例評価とかあってもよいのではないか。	A
①武雄市文化連盟に属する各種文化団体の活動を支援し、文化会館・山内改善センター・北方公民館を主会場に文化祭や美術展覧会を開催します。	・たけお芸術祭の開催 ・公募美術展覧会の開催				
②こどもあーとDEスマイルオフィスを実施し、子どもの夢や個性・能力を知ってもらい、地域の方々子どもたちと市民の交流を通じて、地域の活性化を図ります。	・こどもあーとギャラリー				
③H30に作成した副読本を活用し、児童生徒へ郷土の誇る歴史を紹介し、郷土を愛する心を育みます。	・副読本の活用	A			
(2)芸術文化事業の充実		B	A	◆コロナ禍の中でもできる範囲での事業ができていると思う。市としても大事な芸術文化事業と思うので、引き続き推進していくよう努めてほしい。 ◆文化会館の活動も、延期・中止の連続で担当の方々の大変さは一口では言えない事である。開催された催しは、最大限の対策をとられてしっかり開催されて素晴らしいと思う。	A
①公募により図書館・歴史資料館の企画展示室を個人・団体に貸し出し、武雄の優れた文化活動を広く市民に紹介するよう努めます。	・公募展の募集				
②市民が参加・企画する、たけお音楽祭などを継続して支援します。	・たけお音楽祭				
③優秀映画・クラシックのコンサート等の優れた芸術文化を鑑賞する機会を提供します。	・優秀映画鑑賞 ・優れた芸術文化の鑑賞 ・宝石箱コンサート事業 ・アウトリーチ事業	A			

【重点事項 2】文化財の保護・伝承と活用		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1)国・県・市指定史跡等の環境維持と活用		A	A	◆今後とも継続して進めていただきたい。	A
①国・県・市が指定する史跡・天然記念物の環境の維持・保全に努めます。	・文化財の保全体制 ・史跡等のパトロール				
②武雄鍋島家洋学関係資料を適正に保存・活用します。	・武雄鍋島家洋学関係資料保存事業 ・武雄鍋島家洋学関係資料保存活用計画策定事業	A			
(2)史跡おつぼ山神籠石の整備		A	A	◆整備事業は順調に行われたようなので、今後PRや活用など進めていただくとよいと考える。 ◆参加された方々より、とても良かったと聞いた。市外からの参加も多く、定着していったほしい。	A
・史跡おつぼ山神籠石保存整備計画に沿って整備を進めます。	・史跡おつぼ山神籠石保存整備事業				
(3)無形民俗文化財の支援と発表会の場の充実		B	B	◆コロナ禍のため協議会の開催が少なくなったり、行事の開催ができなかったようだが、今後、引き続き活動の推進を図ってほしい。 ◆伝統芸能に対して十分な支援をしていくことが地域のまとまりができ活性化していいと思う。	A
・国・県・市の補助金や各種財団の助成金制度について情報を提供し、保存会活動を支援します。また、武雄市伝統芸能保存連絡協議会を中心に、後継者育成を目的とした発表の場の提供を図ります。	・武雄市伝統芸能保存連絡協議会の開催・支援 ・武雄市伝統芸能まつりの開催・支援				
(4)文化財資料の調査と保護		B	B	◆文化財保護のためには必要な取り組みであり、今後とも継続して取り組んでいく必要があると思う。	A
・本市に所在する重要な文化財を後世に伝えるため、物件の調査を行います。また、文化財保護審議会を定期的に開催し、本市の取り組み状況について説明・助言をもとめます。	・文化財保護審議会の開催				
(5)開発と埋蔵文化財保護との調整		A	A	◆今後とも継続して進めていただきたい。	A
・土地の開発に関し、埋蔵文化財保護との調整・指導を行い、埋蔵文化財の保護に努めます。	・市内遺跡発掘調査事業				
(6)出土遺物再整理事業への推進		A	A	◆今後とも継続した取り組みを進めていただきたい。	A
・過去に発掘調査を行い、出土した市内埋蔵文化財を再整理し、適正に保存・管理、活用できるようにします。	・市内出土遺物再整理事業				

基本目標Ⅳ 豊かな学びを支える教育環境と子育て環境の整備

【重点事項1】安全・安心な教育環境の整備

具体的施策	主要事業名	自己評価		評価委員の評価	
		事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
<b>(1) 安全・安心な環境づくり</b>					
①PTA等と連携・協力して、不審者、声かけ事案等から子どもたちを守ります。	・各学校で地域や保護者と連携した定期的な見守り活動の実施 ・安全マップ、緊急時対応マニュアルの確認と見直し ・「こども110番のいえ」の周知	A	A	◆PTAや地域の協力を得た取り組みは大事であり、さらに充実していくことを期待したい。 ◆今後とも継続して取り組んでほしい。 ◆点検と併せて、通学路を常時通行する県内運輸業者に安全運転を呼び掛ける必要がある。(ながら運転禁止、スピード減速等) また、警察からも運輸業者への指導を強化していただくのが良い。	A
②通学路の安全確保のため、学校・家庭・地域社会の協力体制のもと、日常点検等を行い、交通事故等の未然防止に努めます。	・年1回以上の通学路の安全点検 ・防災の視点からの点検(大雨、地震、ブロック塀等)	A	A		
<b>(2) 安全教育の徹底</b>					
①「自分の身は自分で守る」意識の定着を目指し、防犯ブザーの所持徹底を図ります。	・防犯ブザーの携帯 ・防犯教室の開催	A	A	◆今後とも引き続き安全教育の充実に努めていただきたい。 ◆小学生の防犯ブザー携帯率、ヘルメットの着用の部分は子ども達の命を守るうえでは100%であるべき項目であると認識します。今よりもっと小学校に対して、防犯ブザー携帯、ヘルメット着用共に徹底するよう働きかけをしていただきたい。 ◆PTA、地域と一体となって取り組んでほしい。	A
②「全ヘル運動」を実施し、自転車に乗るときのヘルメット着用を推進します。	・「たけおっ子全ヘル運動」の推進 ・交通安全教室の開催	A	A		
③安全に関わる訓練を行い児童生徒の危機回避能力を高めめます。	・避難訓練等の計画的実施	A	A		
④インターネットやスマートフォン等の利用に関するモラルの育成に積極的に取り組みます。また、関係機関、保護者と連携し、児童生徒に適正な利用の指導を行います。	・情報モラルに関する学習の実施	A	A		

【重点事項2】教育施設・設備の充実

具体的施策	主要事業名	自己評価		評価委員の評価	
		事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
<b>(1) 教育施設・設備の点検、整備</b>					
①学校環境衛生の基準に基づき、定期検査、臨時検査及び日常の点検を行い、学校における環境衛生の管理に努めます。 また、社会教育施設の定期検査や日常的な点検調査を行い、安全で快適な施設の維持管理に努めます。	・定期環境検査の実施	A	A	◆引き続き点検活動を実施し、安全な施設維持に努めてほしい。	A
<b>(2) 安全・安心な学校づくり</b>					
①学校施設・設備の定期点検、日常点検で危険箇所や劣化の状況を調査し、安全・安心な学校施設・設備の維持管理に努めます。	・消防設備、電気設備、浄化槽の点検及び維持補修 ・営繕工事の実施	A	A	◆今後とも点検活動を実施し、安全管理に努めてほしい。	A
②児童生徒が安心して学べる学校生活空間づくり、安心して遊べるための環境整備に努めます。 また、誰もが利用しやすいよう、バリアフリーなどにも配慮した施設づくりに努めます。	・各種施設の保守点検 ・バリアフリー等、施設の点検	A	A		
<b>(3) 安心して学べる快適な社会教育施設づくり</b>					
・公民館、図書館・歴史資料館をはじめとする社会教育施設については、設備、機能の充実を図り、利用者の目線に立った利用環境の充実に努めます。	・朝日公民館建設事業 ・北方公民館設備復旧事業 ・武雄市図書館・歴史資料館改修事業	A	A	◆今後とも社会教育施設の整備に努めてほしい。	A
<b>(4) アセットマネジメントの推進</b>					
・学校施設、放課後児童クラブ施設や社会教育施設について、アセットマネジメントによる個別施設整備計画を策定します。	・アセットマネジメント個別計画の策定	A	A	◆継続した取り組みを行ってほしい。	A
<b>(5) ICT機器等の教育環境の整備</b>					
・電子黒板や学習者用端末、学習支援システム等の整備・更新を適宜実施します。	・電子黒板や学習者用端末、学習支援システム等の更新	A	A	◆ICTを活用した教育を推進するため、今後とも整備等に取り組んでいただきたい。	A

【重点事項 3】子育て支援の推進		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1)子ども・子育て支援事業の充実		A	A	◆子育て支援については、大変充実していると思われる。今後も推進していただきたい。	A
・すべての家庭が安心して子育てができるよう、様々な社会環境の変化に対応した子育て支援を充実します。	・利用者支援事業(基本型) ・延長保育事業 ・一時預かり事業 ・ファミリーサポートセンター事業 ・病児・病後児保育事業((4)に再掲)				
(2)乳幼児期からの地域との絆づくり		B	B	◆コロナ禍の中で難しい部分もあると思うが、引き続き工夫した取り組みを行い子育て支援を充実してほしい。	A
①保護者の学習機会の充実 ・家庭での教育力向上のため保護者のニーズにあった支援をします。	・赤ちゃんひろば ・親子リフレッシュタイムの開催 ・マタニティヨガ & 胎教バスタリアート				
②子育て支援者の質の向上 ・子どもの健やかな発達を支援するため支援者の質の向上や、保護者支援について研修します。	・子育てサポーター等養成講座 ・子育てサポーター定例研修、ファミリーサポーター研修、抱っこボランティア研修 ・放課後児童クラブ支援員・補助員研修	A	A	◆子育て支援の充実に一層努めてほしい。	A
③地域の子育て支援の充実 ・子育て支援者交流会の実施、地域の子育て親子の交流・支援、情報提供をします。	・子育て支援者交流会の開催 ・各公民館等での子育てひろば開催(地域ひろば) ・赤ちゃん登校日開催(武小・山中・北方中) ・おひさまフェスタ、たけお子どもフェスタ開催 ・三世代交流	B	B	◆子育て支援の充実に一層努めてほしい。	A
④ブックスタート(おひざでよんで!)事業の推進 ・乳児(4ヶ月児)を対象に、絵本を通して親子の心の交流を深め、心安らく時間を共有してもらうよう支援します。 ・ボランティア、市関係部局と連携し、子育て支援を充実します。	・毎月、こども図書館で読み聞かせ、絵本のプレゼントを実施。 ・保健師、保育士等の出張相談窓口を設置。	A	A	◆図書館と連携した武雄市らしい取り組みで、今後とも推進していただきたい。  ◆コロナ禍でもいろいろな工夫をしながらの実施はとも評価できる。絵本に小さい頃からふれることは心豊かに育つ為に重要であると考えられるので、今後ともしっかりと続けてほしい。  ◆コロナ禍の中、年21回の実施はとても素晴らしく、今後も期待したい。	A
(3)保育環境の充実		A	A	◆保育士の確保に力を入れている点にまず評価できる。今後とも推進していただきたい。	A
・市内における保育・教育施設の質の向上と多様化する保育ニーズに対応します。	・保育士等就職支援補助 ・合同求人説明会 ・各施設に講師を派遣し研修会を実施				
(4)病児・病後児保育の充実		A	A	◆子育て支援の観点から高く評価できる取り組みである。今後とも推進していただきたい。	A
・病児・病後児保育施設の利用促進を図り、就労等でお困りの保護者の負担を減らします。	・病児・病後児施設の周知、利便性の向上				
(5)総合的放課後対策の推進		A	A	◆コロナ禍の中でよく取り組まれている。引き続き推進してほしい。  ◆働く親世帯の深刻な問題なので、支援員の確保に期待したい。	A
①放課後子ども総合プランの推進  ②全ての就学児童が放課後等を安全安心に過ごし、多様な体験・活動を行えるよう進めます。	・放課後児童クラブの実施  ・放課後子ども教室の実施  1)一体型放課後児童クラブ・子ども教室の実施 2)連携型放課後児童クラブ・子ども教室の実施				
(6)子育て世代包括支援センター事業との連携		A	A	◆子育て支援の取り組みとして評価できる内容で、今後とも切れ目のない支援に取り組んでほしい。	A
・子育て世代包括支援センターを、健康課と子育て総合支援センターに設置し、妊娠期から関係機関との連携を図りながら切れ目のない支援を実施します。	・利用者支援事業(母子保健型)				

【重点事項 4】子どもの貧困対策		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) 子どもの未来応援計画の推進					
・次世代を担う子どもたちが、環境に左右されることなく、教育機会の均等を図るため、実態把握と必要に応じた対策を行います。	・子どもの未来応援計画の推進	—	—	◆支援のためにコーディネーターの配置等に取り組まれており評価できる。引き続き子どもの支援のために取り組んでほしい。 ◆今後の取り組みに期待したい。	A
(2) 伴走型支援の充実		A	A	◆コーディネーターの活動は、子どもの支援にかなり役に立っているのではないかと思う。引き続き継続して取り組んでほしい事業である。	
・子どもの成長段階に合わせ、妊娠・出産期から小学校期など、早い段階から長期的・継続的な支援を行うことにより、子どもの貧困の解決と予防を推進します。	・こどもの笑顔コーディネーターによる支援の拡充				
(3) 就学支援の推進		A	A	◆今後とも継続して取り組む必要がある。	
・就学前早期に際し、経済的に厳しいご家庭に対し、就学相談や就学支援制度の周知を図ります。	・就(修)学支援相談 ・就学支援制度の周知				

【重点事項 5】働き方改革の推進		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) キッズウィークの推進					
・「働き方改革」による「キッズウィーク」の推進に向け、市長部局と連携して取り組みます。	・キッズウィークの推進	B	B	◆事業の目的、位置付け等あると思うのでよく検討して進めていけばよいと考える。	A
(2) 学校現場の業務改善計画の推進		A	A	◆各学校の効果ある取り組みを市内の学校間で共有するなどして、さらに取り組みを推進してほしい。 ◆先生方の時間外勤務時間の縮減、年次休暇の更なる取得推進を期待したい。 ◆年次休暇が自由にとれる学校環境があると思うが、それが出来れば働きやすい職場になると思う。	
・教職員の時間外勤務の縮減を実現するため、「学校現場の業務改善計画」を推進します。	・学校現場の業務改善計画の推進 (教職員の勤務時間の把握・分析) ・部活動基本方針の徹底				

基本目標 V 協働する市民総参加による教育の推進

【重点事項 1】地域のよさや伝統を生かした教育の推進		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) 地域を生かした教育活動の推進 ・地域の「人」「もの」を教育活動で積極的に活用します。	・地域教材等の授業での活用 ・特別非常勤講師制度の活用	A	A	◆社会に開かれた教育課程のもとよく地域人材等活用した取り組みが行われている。地域を知り、地域に親しみを持てるように今後も継続した方がよい取り組みである。  ◆全小中学校が何らかの形で地域の活動に参加しており、引き続き推進してほしい。  ◆地域のことを学び、郷土愛を育む取り組みになっている。引き続き推進していただきたい。  ◆郷土と一体となり取り組んでほしい。	A
(2) 地域に根ざした学校運営の推進 ・地域行事への児童生徒の参加を積極的に推進し、郷土を愛する心の育成を図ります。	・地域行事への参加推奨	A	A		
(3) 地域文化の継承と文化財保護意識の高揚 ① 史跡や伝統文化等が市民にとって身近な学習教材となるよう、出前講座等で現地を案内する機会を提供します。また、文化財への理解を深めてもらうため、老朽化した欄干について修理、更新を進めます。 ② 文化財防火デー火災防御訓練に協力し、貴重な文化財を保護する精神を育むよう努めます。 ③ 武雄らしい風土（歴史的環境）を守り、市民自らが文化財に対する理解を深める文化財保護思想の醸成・高揚及び郷土を愛する心の育成を図ります。	・出前講座、出前授業の開催 ・市重要文化財等説明板等修理工事 ・文化財防火デー火災防御訓練 ・社会科副読本「わたしたちの武雄市」の配布 ・武雄の歴史副読本「すごいぞ武雄」の活用	A	A		
(4) 教育と産業が連動した施策の推進 ・「教育と産業」を繋ぐ施策として「定住支援」を目的とした奨学金返還補助事業を行います。	・武雄市若者定住促進奨学金返還補助事業	B	B		

【重点事項 2】学校・家庭・地域・諸機関・事業所などとの連携の推進		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1) 学校教育活動の公開 ① 「学校運営協議会」「学校関係者評価」を活用し、学校教育活動を積極的に公開します。 ② 学校リーフレットや学校ホームページ等で児童生徒の様子を保護者や地域に積極的に公開します。	・学校運営協議会等の開催 ・学校のホームページの活用、更新	A	A	◆学校の情報発信はいろいろな意味で大切なことである。市内の全小中学校はよく取り組まれていると思う。  ◆コロナ禍の中で推進員等の努力が見られる事業ではなかったか。さらに学校と地域の連携が進むように、双方の理解を進めていくことが重要ではないかと思う。  ◆これからの学校にとって保護者、地域が一体となって取り組むコミュニティスクールは重要な施策であると思う。学校現場にとっての成果と課題等把握しながら充実したものになるようにしていくことが重要である。  ◆職場体験はコロナ禍の中での実施は難しかったと思うが、全中学校で工夫した取り組みが行われたことは評価できる。今後とも実態を踏まえたキャリア教育の充実に取り組んでいただきたい。  ◆人口減少が続く中で、若者の県内・市内就職を促進する必要がある。職場体験と同時に、中学生の時から県内・市内企業の紹介や見学を推進することも必要である。また、親にも情報提供をする。  ◆職場体験は生徒自身が企業に連絡し決定してほしい。自分でみつけ体験することが大切かと思う。	A
(2) 地域学校協働本部との連携 ・地域、関係機関との連携を深め、地域学校協働本部の立ち上げなど地域全体で学校を核とした協働活動に取り組めます。	・地域学校協働本部事業	B	B		
(3) コミュニティスクールの推進 ・学校・地域・保護者が一体となった学校運営協議会の運営を、より強固な体制に構築します。	・コミュニティスクール推進事業	A	A		
(4) キャリア教育の推進 ① 市内外の企業・事業所等や市民の協力を得ながら、職場体験学習、起業家教育を充実させます。 ② 武雄の先輩の力を教育活動に活かします。	・職場体験の実施（地元事業所を中心に職場体験）	A	A		

【重点事項 3】教育委員会の積極的な情報公開

		自己評価		評価委員の評価	
具体的施策	主要事業名	事業評価	施策評価	指摘事項・意見	施策評価
(1)教育委員会の会議の公開		A	A	◆今後とも積極的な情報公開に努めていただきたい。	A
・教育委員会会議の開催日程などを広報し、会議への傍聴を積極的に働きかけ、会議録の公表に努めます。	・会議開催のお知らせ ・会議録の公表				
(2)公民館活動の積極的な公開		A	A		
・各町公民館から、より地域に密着した行事、話題や出来事などを、公民館だよりやホームページなどで積極的に公開します。	・公民館だよりの発行 ・公民館のブログ、フェイスブックの更新				
(3)教育委員会の点検評価		A	A		
・教育委員会での自己点検・自己評価を行い、外部の有識者で構成する評価委員会の意見を添えた「武雄市教育委員会点検評価報告書」を市議会へ提出するとともに、ホームページで公表します。	・評価委員会の開催 ・評価報告書の議会提出 ・評価報告書の公表				